



地球環境問題を
解決するための、
商品・技術・サービスの
創造に努めます。

企業緑地を活用した 社会課題の解決



活動時期 2021年12月～2022年6月

活動場所 (株)アマダ伊勢原事業所(神奈川県伊勢原市)
(株)アマダ富士宮事業所(静岡県富士宮市)

日比谷アメニスが植栽管理・工事を行っている株式会社アマダ伊勢原事業所・富士宮事業所にグリーンインフラ機能を備えた緑地を提案・施工しました。伊勢原事業所には、歩道の浸水や排水管の負担を低減する貯留型のレインガーデンを導入しました。富士宮事業所には、浄化型レインガーデンを導入しました。敷地が富士山麓にあるため水質保全・地域防災を目的としています。さらに、伐採材の循環利用チップの広場を設け、従業員のウェルビーイング向上も狙っています。

活動の目的

社会課題である「環境配慮」「地域防災」「循環型社会」に対して、民間企業の緑地を活用して解決する事例を作ることが目的となりました。この活動が事業者の環境課題への取り組みの一つとなり、企業のブランド価値向上につながることを目的としました。

取り組み・成果

グリーンインフラのもつ多様な機能を使い分けることで、浸水対策・降雨直後の排水管の負担軽減・水質保全・地域防災・ウェルビーイング向上・発生材の循環利用によるCO₂削減のアイデアといった付加価値をもつ緑地を造ることができました。地域ごとの課題や環境に応じてデザインしました。

今後の目標・課題

民間企業は様々な都道府県に敷地(工場など)を持っています。このような企業と専門知識と国内複数の拠点を持つ日比谷アメニスが共創することで、様々な地域の課題解決を行うことが可能です。今後も民間企業緑地の活用を提案し、地球環境問題解決に寄与していきます。



1



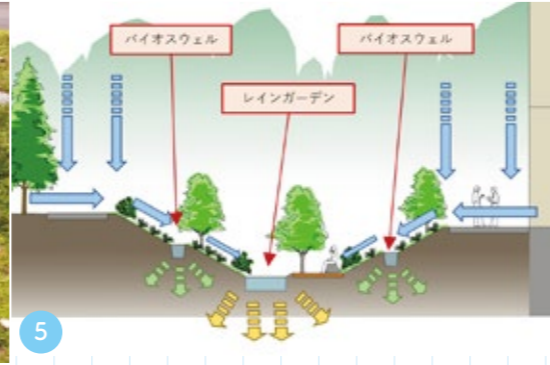
2



3



4



5

- 1 伊勢原事業所のレインガーデンと説明看板
- 2 伊勢原事業所のレインガーデンの在来種を中心とした植栽
- 3 富士宮事業所の循環利用チップの広場。元のすり鉢状の地形を活かしたデザイン
- 4 富士宮事業所のバイオスウェルと浄化型レインガーデン。既存の岩をアクセントとしてデザインに取り込んだ
- 5 富士宮事業所のグリーンインフラで雨水を処理する模式図



1



- 1 蚤の市のポスターと当日の様子
- 2 宮前公園隣接のARAKAWA_ii_VILLAGE
- 3 当日は多くの方が出店
- 4 北部緑地ワークショップのポスター
- 5 北部緑地のノッパさんと一緒に手作りする様子

地域と共に「蚤の市」 公園と共に育てる地域と人の和

活動時期 2022年1月21・22日

活動場所 区立宮前公園、ARAKAWA_ii_VILLAGE(東京都荒川区西尾久・東尾久)

荒川区に新設された区立宮前公園では、建設時より将来の利用者である地域の方々と公園を繋げる活動を行ってきました。公園隣接商店 ARAKAWA_ii_VILLAGE(アラカワイビレッジ)主催の「arakawa YELL 蚤の市」では、公園建設時の余剰資材販売とワークショップを行い、売上金をNPO法人へ寄付しました。蚤の市のお客さんは元より、参加者や地域住民の方と共に地球環境問題を考えるきっかけになった取り組みでした。

活動の目的

廃棄予定の余剰資材が誰かの「欲しい!」に繋がったり、ワークショップを通じて公園や地域の話題を沢山の方とお話することで、みどりや公園、そして地球環境問題に興味を持ってもらえることを目指しています。収益金をNPO団体へ寄付することで助け合いのネットワークをつくることも目的のひとつです。

取り組み・成果

余剰資材のレンガは花壇やピザ窯資材として購入者のもとで再利用してもらえました。ワークショップでは同じく余剰資材を使って、宮前公園で使用している案内板の1/5サイズを自らの手で作れる企画を行い、子供から大人まで思い思いの色や形に仕上げながら、思い出と共に持ち帰ってもらいました。

今後の目標・課題

これからも宮前公園を始め多くの場所を使って、私たちの公園建設やみどりに関わる仕事と、利用者や地域が接する機会を多く創出していきたく思います。その先には助け合い関係や、共に地域や地球環境を良くしていくという行動があると思います。小さな取組を沢山重ねていくことで明るい未来が見えてくるはずです。

活動実施会社 北部緑地株式会社



低コストで木質チップの品質向上 透湿防水シートを用いた実証事業

活動時期 2021年8月～2022年3月

活動パートナー 有限会社袖ヶ浦木材センター(千葉県袖ヶ浦市川原井)

バイオマス燃料の課題となっている水分管理としての保管と乾燥。この解決手段を見出すため、林野庁の令和3年度「地域内エコシステム」技術開発・実証事業に採択をいただき、弊社が取扱う透湿防水シートの効果を実証しました。また、実証結果をもとに実際の現場で想定される適用モデルも検討しました。この技術を地域で取組むことのできる、簡便な保管・乾燥手法とすることで、我が国の木質資源の有効活用への貢献を目指します。

活動の目的

発酵熱を用いる木質チップの自然乾燥手法を高度化し、簡便かつ低コストで実施可能な手法として確立することにより、林野庁が推進する地域内エコシステムづくりに貢献することです。また、シートご利用者から、運用方法や効果の最適化という課題もいただけており、その解決策を見出したという課題意識がありました。

取り組み・成果

発酵が進みづらい冬場のデータでしたが、シートを掛けている試験区では水分の低下が確認され、シートを掛けていない試験区では水分の上昇が確認されました。また、既存の利用者へのアンケートにて、燃料を効率よく保管・乾燥させるための事業者様の工夫を数字で整理することができました。

今後の目標・課題

乾燥の過程でどれだけのエネルギーを損失するか(有機物損失)を正確に計測できなかった他、夏場のデータを採取することができなかったこと、掛け剥がしの簡便な手法を確立できなかったことが課題として挙げられました。来年度の実証で解決していくことを目標としています。

